

# こだわり米づくりの作業内容の紹介

## 1 土づくり



- 土壌中の腐植を増やし地力を高めるため、稲刈り後、堆肥や稲わら、ボカシ肥料、発酵鶏糞、米ヌカ、石灰質肥料等を施用して土づくりをします。
- 継続することで地力が高まります。

### ポイント

- 収穫後の早い時期に実施しましょう。

## 3 温湯消毒

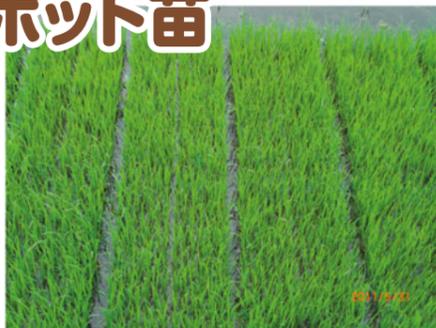


- 無消毒の乾燥した種籾を網袋に入れ、60℃の温水に10分間浸漬して消毒する農法です。

### 留意事項

- 消毒効果を高めるため、種籾は網袋の容量の半分以下とします。
- 発芽率が低下しないように、消毒温度と時間を厳守します。
- 温湯消毒後は、種籾を直ちに冷水で冷やします。

## 5 ポット苗



- ポットに2粒程度播種して、専用の田植え機で田植えする方法です。
- 田植えする際に、根痛みが少なく活着が早いのが特徴です。

## 2 冬期湛水



- 稲刈り後、稲わらの分解を促すため耕起を行い、11月上旬頃から冬期間に水を張る農法です。
- 表層に「トロトロ層」を形成することで、雑草の抑制効果や肥料節減効果が期待されます。

### 留意事項

- 冬期間に水が不足する地域では取組みが困難です。

## 4 播種・育苗



- 温湯消毒した種籾を、無肥料の床土や、有機質肥料入りの床土に播種し、苗づくりをします。

### ポイント

- 田植え1週間前の苗の葉色が淡くなった場合、有機液肥を20倍に薄め、1箱あたり0.6%散布すると、田植え後の活着が良くなります。液肥散布後は、葉ヤケ防止のために水で軽く洗い流します。

## 6 プール育苗



- 均平な置き床を作り、木枠等の上に耐水性のシートを張り、水を溜められるようにします。
- 出芽後に床土表面まで水を入れ、常時、湛水管理で育苗します。
- 病害虫の発生が少なくなるメリットがあります。

### ポイント

- 出芽前は入水しません。
- 低温時は、保温シートを掛けます。

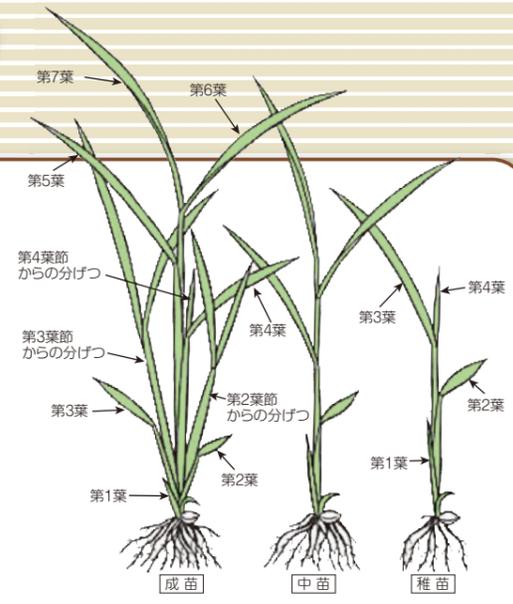
## 7 苗の種類(稚苗、中苗、成苗)

一般的に田植えに使用する苗は分けつが取りやすい稚苗を用います。しかし、除草剤を使用しない栽培を行う場合、雑草に負けないことが第一条件となるため、稚苗よりも大きい中苗や成苗を使用します。

〈苗の種類・概要〉

苗の種類	苗丈(cm)	葉令(葉の枚数)	育苗日数	播種量(粉g/苗箱)
稚苗	12~13	2.1~2.5	20~25日	120~180
中苗	16~18	3.5~4.0	30~35日	80~120
成苗	18~20	4.0~4.5	35~40日	40~50

※葉令:第1葉(不完全葉)を含めない葉の枚数



図/苗の種類 (皇川清親による)

## 8 代かき・田植え



- 水を張り、水田を均平にする作業を代かきと言い、雑草の発生程度を見て、田植えまでに代かきを2~3回行くと、雑草抑制効果が高くなります。
- 水田を均平に代かき後、苗を移植します。

### ポイント

- 雑草との競合に負けないため、代かき2~3日後までには田植えを行います。

## 9 米ヌカ除草



- 田植え直後に米ヌカ施用することで、土壌の表層に還元層を作り、また、田面の濁水により、雑草の発芽や初期生育を抑制することができます。

### ポイント

- 米ヌカ施用のみで、高い雑草効果は期待できないため、田植え後の深水管理(7~10cm程度)や機械除草等との併用が必要です。

## 10 機械除草



- 雑草が多い場合は、田植え後15~20日と、35~40日頃の2回、除草機で除草すると雑草を減らすことができます。
- 除草時期は、機械の種類により異なります。

## 11 除草機械(一例)

### ◆チェーン除草

のれん状にチェーンを取り付け、水田内を引きずって発芽した雑草を除草する方法です。



### ◆アイガモン除草

刈払機にカバーを装着し、条間の雑草を除草するための専用カバーです。(写真)平塚商事株式会社HPより



### ◆水田カルチベーター

作物回りを攪拌し、トロトロ層を作つて除草を行う機械です。(写真)株式会社キョウホーHPより



### ◆八反取り

前後に動かし、水田の表土を浅くかき廻し除草します。

※他にも各メーカーより、多様な除草機械が開発・販売されています。